

# 多摩デポ通信 第22号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2012年4月26日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

5月20日の総会に集い、「多摩デポ」と

共同保存の明日を語りましょう！

理事長 座間直壯

五年目を迎える多摩デポは、都立図書館の蔵書廃棄問題から端を発し、提供のための共同保存図書館の実現を目指してきました。共同保存図書館という館の存在は未だ現実のものとはなっていないが、足取りは着実に

根を張り始めており、その実感をもって活動が展開されていると思います。そこで昨年度の活動の一部を以下にご紹介し

ます。多摩デポは、資料の共同保存事業という大命題は掲げつつも、今回の東日本大震災で被災した図書館の支援に乗り出し、福島県矢吹町や岩手県陸前高田市の図書館支援に日本図書館協会を通じて参加してきました。そこで様々な場面に遭遇し貴重な体験を得てきました。

(本号で紹介されています)

図書館の資料保存に対する考え方にも大きな変化が現れています。より安全な場所での保存スペースの確保は勿論ですが、リスク分散の発想や購入不能な既刊書の補充体制、地域資料の複製化、災害時の緊急支援体制の確立、総合的なネットワークの構築など様々なことの必要性を痛感しました。これらの大きな経験は今後の資料保存事業に活かし、共同保存図書館の役割を改めて考え、日常的な資料保存と同時に災害時における相互の協力体制や基本的資料の備蓄などにも配慮が求められると考えています。

また、多摩デポ講座に

ついてもこれまで13回の講座を開催し、それぞれに成果をあげていると思えます。直近の講座では、震災発生から一か月半後には被災地の釜石市に入って市役所の公文書の修復に取り組んできた、国文学研究資料館の青木先生を訪ねての講座を開催しました。(本号で紹介されています)

これまでの講座の内容は「多摩デポブックレット」としてまとめてあり、最新の第7号は、本総会の会場で会員の皆様への配付を予定しています。

会員以外の方にも有料頒布しておりますが、それぞれに図書館にも



備えていただければ幸いです。既刊については多摩デポホームページをご覧ください。

更に多摩地域の図書館における複本調査も徐々にではありますが取組みをすすめてきています。本号にも紹介があります。が、図書館での除籍予定図書について、多摩地域で最後の二冊以下のものを調査する作業を行ってきました。これは多摩地域の図書館長協議会（東京都町村立図書館長協議会）で申し合わせた作業で、各図書館が図書の除籍を行う際に予め当該図書が多摩地域で最後の2冊以下を確認し、該当すればその図書館の責任で保存しておく仕組みです。このことで地域

の所蔵タイトルを確保し、分散型の共同保存のシステムを作り上げていくのです。この作業は人手と若干のノウハウを要する作業でもあることから、依頼に応じて多摩デポがボランティアで行っている事業です。

多摩デポは、このように共同保存図書館実現に向けての歩みを進めていきますが、今年度は総会後のパネルディスカッションにおいて参加者も交えての意見交換を考えています。五年目を迎え、これまでの講演会形式に代えて会員相互で多摩デポの将来を自由に語り合いたいと考えています。会員皆様の総会へのご参加と、活発な意見交換をお待ちしています。

## 2012 年度通常総会に集まろう！

NPO 法人多摩デポ 早くも5年目……

日時：5月20日(日) 午後2時～4時30分

会場：国分寺労政会館第一会議室（地下1F）

JR 国分寺駅南口5分 旧勤労福祉会館 電話：042-323-8515

午後2時～3時 2012年度通常総会

3時10分～4時30分 パネルディスカッション

### 「多摩の共同保存のいままでとこれから」

パネリスト：中村照雄氏（八王子市生涯学習センター図書館長）

手嶋孝典理事（元町田市立図書館長）

田中ヒロ理事（元東京都立多摩図書館職員）

コーディネーター：齊藤誠一事務局長

（元立川市図書館職員/元「都立多摩図書館があぶない！集会」 実行委員会共同代表）

午後5時頃～ 場所を移し懇親会

## 総会記念シンポジウム 企画を少し説明

多摩の図書館全体の特徴は貸出の重視と個々のリクエストに応える姿勢です。資料提供は単独ではできません。相互協力と都立図書館の支援が大変重要です。

2001年、信頼した都立多摩図書館が縮小・再編される事態に職員・住民で急速に盛り上がった反対運動。市町村立図書館長協議会は結末し、以後、独自の動きを強めざるを得なくなります。「多摩デポ」運動の発端でもあります。

田中さんは当時の都職員。手嶋さんは都の除籍5万冊をあげかつた町田市、館長会の共同利用図書館報告書メンバー。中村氏は一昨年、都立多摩を除籍の広域行政資料を引き受けた八王子市齊藤さんは反対運動から共同保存「多摩デポ」へ。

## 東大和市 一冊本横断検索 ボランティア作業終了

昨年の事業として、依頼された東大和市の除籍候補資料の横断検索を行なったことは、「通信」20号で報告しました。

さらに今年1月から2月にかけて約千五百冊の追加の検索依頼がありました。急な依頼で、会員の皆さんへ参加を募集する余裕がなく、これまで参加して下さった方など事務局周辺の方への連絡が中心になってしまいました。それでも9名の方にボランティア参加してもらいました。

今回はちょうど東京都の電算システム変更に伴い、使い慣れた「横断検索」から「統合検索」に変わったことで、最初は事務局も手探り状態でした。手順も画

面も大幅に変わり、検索マニユアルも作り直しました。参加者から、こんな時はこうすれば……、という裏ワザを教えていただくこともありました。今後も効率的な検索方法を追究していきたいと考えています。

## ボランティア募集！

そして新年度も引き続き各市の除籍候補が他市に何冊あるか検索する事業に取り組む予定です。

作業自体はパソコン環境さえあればどなたでも力を貸していただける内容です。皆さま、どうぞボランティア登録に手を挙げておいてください。実際の作業が入った時にご連絡をし、作業量等も相談の上でやってもらいます。

常時受け付けますので、左記までお申し込みを。

depo\_tama@yahoo.co.jp

東京都多摩地域公立図書館大会（第一分科会）で矢吹町図書館支援の事例発表を行いました

東京都多摩地域公立図書館大会は「震災と図書館支援・被災地支援のあり方、図書館にできること」をテーマに2月に3日間に渡って開催されました。

このうち、初日の2月7日の第1分科会・館長協議会（立川市女性総合センター・アイム）では、基調講演「被災地における図書館支援」西野一夫氏（日本図書館協会常務理事）、「東日本大震災・流失した図書館」矢崎省三氏（東京学芸大学非常勤講師、多摩デポ理事）と、立川市、三鷹市、府中市、そして多摩デポの支援活動の事例発表が行なわれました。

基調講演は、被災状況や支援活動について、写真を

まじえて詳しく解説、今後の支援活動体制や復旧への提言も含む内容でした。

図書館による事例発表では、市内書店と協力し市民の支援を得て石巻市へ児童書を贈った立川市、新校舎移転直前に被災した姉妹都市の矢吹町中学校へ蔵書を寄贈した三鷹市、リサイクル資料を活用した支援を模索し大槌町へ寄贈を行った府中市の各図書館の工夫や苦心が報告されました。

**第12回多摩デポ講座  
国立国会図書館  
憲政資料室見学会**

1月28日に実施しました。12名までとの制限がありましたが、少人数でじっくり説明を聞き、見学することができました。

多摩デポ会員だけでなく、司書の勉強中で史料や近現代史に興味もある大学生3人、そして高校生1人、憲政資料室のヘビィユーザーまで、幅広い参加で現物資料の力と保存の意味を実感できた見学会でした。

以下参加者の感想です。  
※ この度、機会に恵まれ、国立国会図書館憲政資料室見学会に参加することができました。  
まずは簡単な説明などを受けた後、図書館の一般公開されているフロアの案内

から始まりましたが、そもそも国立国会図書館に来るのも初めてだった為、ちょっとした余談を交えた説明をしていただいたこともあり、とても楽しく見て回ることができました。



地下の書庫では、日本の新聞全てを保存しているという地下7階、漫画雑誌を含む雑誌を保存している地下4階などを見学しましたが、膨大な蔵書の数もですが、自然光を使っている為、

地下なのに暗い印象や圧迫感を感じない工夫された構造にも驚かされました。

その後、憲政資料室の説明が行われました。主に憲政資料、日本占領関係資料、日系移民関係資料の三つの資料群に分けられているというところ、個人などの寄贈や、所有権を相手に残したまま預かる、またはマイクロフィルム撮影でコピーするなどといった方法で資料を収集しているということや、一つ一つ整理し、劣化しないよう丁寧に管理している、などといった内容でした。

下手すると自身の代では終わらないのではないかと、というほどの長い年月をかけて行う収集・保存は大変な労力を必要とするものばかりで、職員達の熱意を感じる話でした。

具体的な話をあげながら憲政資料室についての説明

が終わったあとは、その資料らが保存されている書庫の見学が行われました。

2月1日から3月2日まで開かれていた展示会「ビジュアル雑誌の明治・大正・昭和」で展示予定だという文書や写真を、実際に目の前にしながらかなり詳しく説明して頂けたので、当然ですが、展示会で文字の説明を追いながら、ガラス越しに展示品を見るよりも、ずっと興味深く、素晴らしいものでした。直接並べられ、説明がされたのは数点だけでしたが、それだけでも、私はただの学生ですので充分すぎるほどだと感じました。

今回、このような素晴らしい見学会を開催し、参加させていただき、本当にありがとうございます。

八木美沙希

先日は貴重な経験をありがとうございました。地下8階にわたる書庫や貴重な憲政資料を見せていただいたときには、さすが国立国会図書館！という感動で胸がいっぱいでした。

また国立国会図書館の電子化が想像以上に進んでいることが驚きました。これから日本の図書館はどんどん電子化が進むのだと改めて感じました。また利用者の方が多いことにも驚き、今の時代はネットで調べれば大体のことが分かりますが、それでも分からないことを探しに来る人がこんなにたくさんいるという事実を見て、図書館はまだまだ求められていると感じ、求められる図書館を作るためにももっと図書館について勉強したいと思いました。多摩デポの皆さんとはあまりお話ができませんでしたが、また

どこかでお会いできたら嬉しいです。突然の参加を受け入れてくださり、ありがとうございました。

東京学芸大学

南部明日香



私は国会図書館を訪ねること自体が初めてでしたので、その初回に普段は入れ

ない場所まで見学することが出来てとても幸運でした。知識としてはどのような場所かを知っていましたが、地下8階に及ぶ書庫や広い館内を目の当たりにして、改めて「ここに日本の出版物が集まっているのだ」と実感して感動していました。

そして短時間ながらも本物の憲政資料も閲覧することが出来、これまで以上にこういった資料への関心が高まりました。

慌ただしく、ご挨拶も出来ずに帰ることとなってしまいましたが、今回は多摩デポの皆様に行方出来て本当に良かったです。ありがとうございました。

東京学芸大学

吉村綾子

### 第13回多摩デポ講座

災害と資料保存く備えと被災時の対応、修復から復帰までく

2月25日に立川市高松町の国文学研究資料館で実施し、講師は同館准教授の青木睦氏。参加は26名。被災地での実際の資料レスキュー活動に基づいたホットで具体的なお話で、実践的に大いに役立つ内容でした。ツイッターやホームページをたどって申込んできた方もいて、非会員の参加がいつもより多かったです。

講演の様子は寄稿いただいた論に詳しいですが、青木先生の話の展開は「多摩地域の図書館でも、防災ネットワークを作っていく必要がある」との指摘にも及びました。確かに、たとえ共同保存図書館ができてリスク分散が図れたとしても、

地震だけでなく、火災・漏水などいづれでもあり得ること。そうした場合に対応できるスキルを持ったメンバーを増やすことは必要ではないでしょうか。

内容が充実していた分、多摩の現役図書館員の参加が少ないのが残念でした。研修は日々の実務に直結するものに人気が集まるもの。非日常な内容ですが、想像の中でいくらかでも現場の日常に繋がっている講座でした。

「災害と資料保存く備えと被災時の対応、修復から復帰までく」

に参加をして

盛岡大学文学部准教授

千錫烈

2月25日(土)に国文学研究資料館で開催された第13回多摩デポ講座に参加させていただいた。講師の青

木睦先生からは、岩手県釜石市の水損した公文書の救助・復旧活動について具体例を交えたお話を聞かせていただいた。救助・復旧の対象は非現用文書ではなく現用文書であり、釜石市の復興計画に直結する非常に意義のある活動であったといえよう。公文書は個人情報など公開できない情報もあるため、守秘義務に関する誓約書を取りかわしてか



ら作業を行ったという。青木先生も現用文書を扱うのは初めてのことだったそう。今回の活動は行政以外の第三者が行政の現用文書の救助・復旧に携わるモデルケースとなろう。

青木先生の講演の中で私の印象に残った事柄をいくつか挙げることで報告とさせていただきます。

#### ①初動活動が非常に迅速

青木先生が被害調査に釜石市に入ったのが4月26日と震災からまだ一か月半という早い時期であり、車道以外は瓦礫がう高く積まれている状況であったという。そして、その一週間後の5月6日から作業を開始し6月11日には水没した地下書庫から公文書を全て救出し、7月13日には文書リストの作成を終え搬出作業を終了している。段ボール

一千箱、推定二万七千点という分量を考えると驚異的な速さであると言えよう。初動活動の迅速さは重要であるが、長年に渡って被災文書の救助を行いノウハウを確立しているからこそ迅速な対応ができたのだと思う。

## ②現場で救助・復旧活動が完結

水損した資料の修復には大型の真空凍結乾燥処理機材を使用することが多いが、こうした機材を所有しているのは大規模な博物館や公文書館に限られる。今回は1枚物の文書であったことや現用文書であったこともあり、こうした大型機材を使用せず、文書の長距離輸送などもなく、現場のみで救助・復旧活動が完結できたことは、機密性があり、かつ直ちに必要な現用公文

書に適した方法であったといえよう。

## ③調達しやすい安価な資材を使用

実際に救助・復旧活動で使用した資材を見せていただいたが、例えば吸水紙はキッチンペーパー・古新聞・ダンボールといった安価で簡単に作成できるものであった。また、カビ防止や機密保持が重要な公文書は、市販の座布団圧縮パックを使用してパッキングすることにより、カビを防ぐだけでなく情報機密も保たれ、一般ボランティアの持ち運びが可能になるというメリットもあったという。数百メートル離れた乾燥場所への搬入は自動車ではなくリヤカーが活躍したとの説明を受け、調達しやすい安価な資材の活用が救助・復旧活動のスピードを高め

ることを実感した。もちろん乾燥用の大型扇風機など高価な機材も必要だが、こちらは寄贈によって対応できたという。

## ④ボランティア主体による運営ノウハウの確立

今回の救助・復旧活動には百二一名、のべ四百人ほどの参加者があったという。そのうち専門家である国文研の人員は2割弱あり、残り8割はボランティアによる参加者である。大人数に對して適切な作業指示を行うことは大変ではないかと考えていた。しかし、一日のみの参加者でも適切な作業を行えるように、グループ化・分業化して簡単な指示のみで円滑な作業を行うことができたという。少数の専門家だけでも大多数のボランティアをまとめていく運営ノウハウは特筆すべ

き事項であろう。

## ⑤水と真水の違い

今回の水損は海水によるものであり、真水とは異なるという指摘も興味深かった。例えば真水はカビが発生しやすく腐りやすいが、海水は真水ほどではないことや、真水は文書が密着しやすく剥離作業が困難であるが、海水は塩分が紙面に粉がふくことで密着しにくいなど、非常に興味深い話を聞くことができた。

私自身も被災地における大学の図書館司書課程の一教員として学生を引率して被災地図書館の支援活動を行っているが、青木先生の講演で得た知識を活かして今後の活動につなげていきたい。

**多摩デポ**  
**ブックレット第7号**  
**総会に合わせ 発行**

「多摩を歩いて37年半  
く街、人、暮らし、  
そして図書館」

アサヒタウンズ元記者  
山田優子講演録

ブックレット第7号は、  
2010年7月9日に国分  
寺労政会館で実施した、元  
アサヒタウンズ記者の山田  
優子さんの講演記録です。  
37年もの長きに渡って発  
行されていた「アサヒタウ  
ンズ」は、2010年2月25  
日号での廃刊告知後、3月  
25日号を最後に廃刊になり  
ました。

「多摩地域在住の記者に  
よる多摩地域の人たちのた  
めの多摩の情報紙」という

コンセプト  
のもとに発  
行され、多  
摩に住む人  
と人の絆を  
結び続けて  
きたアサヒ  
タウンズの



あまりに唐突な廃刊のお知  
らせに、驚きと困惑とを同  
時に感じた方も多かったこ  
とでしょう。廃刊が告知さ  
れた後、二週間ほどの間に  
二七〇通もの投書が、そし  
て一ヶ月ほどの間に五〇〇  
本ほどの意見が電話で寄せ  
られたといえます。

多摩地域をくまなく歩き  
回り、職業生活の全てとい  
っても良いほどの時間をこ  
の地で費やしてきた山田さ  
んの多摩地域で生きる人々  
への思いが伝わってくるも  
のになっています。

講演時には調査途中だっ  
た多摩地域の公共図書館で  
のアサヒタウンズ保存状況

も掲載しましたので、ご  
利用いただければと思い  
ます。

5月20日の総会参加者  
には当日配布、総会欠席  
の会員には後日郵送の予  
定です。  
ご期待下さい。

タウンズとは全然関係ないのですが……

「図書館の主（あるじ）」

篠原ウミハル・作

という芳文社コミックス知ってますか。  
私設児童図書館に働く司書とそこに集う  
利用者たち。くすぐられます。現在2巻まで。

**書庫訪問**

**多摩市立図書館**

**(本館)**

多摩地域の図書館の書  
庫を巡るコーナー、今  
回は多摩市立図書館  
(本館)の書庫です。



4月10日に多摩立図書館  
本館を訪問しました。旧西  
落合中学校を改装した図書  
館は、外観は校舎そのもの。  
校門(館門?)へ続く道で  
は満開の桜が出迎えてくれ  
ました。この日は、図書館  
資料の里親探し事業で、譲



渡が成立したシリーズ本の欠本をお届けにあがったのですが、その折にお願いして書庫も見学させていただいたのです。



市役所の隣にあった本館が耐震上の問題で平成20年3月にこの場所に移転。ここは暫定期間10年程度図書館の図書館です。延べ床面積は約5千5百㎡。一階部分は開架スペース。長く続く廊下の片側に並ぶ教室は、扉が取り払われて、分野別のコーナーとなっていました。二階は閲覧室や事務室など。

そして三階と四階が書庫です。階下は校舎の雰囲気の色濃く残りつつも全面改装されていました。書庫は教室そのもの。南京錠がかけられた各教室の扉をあけると、旧館から移設した様々なタイプの書架が整然と並び、教室別に分野ごとの蔵書がおさめられています。書架間隔がゆったりとしていたのは耐荷重の制限もあつてのこと。入口部分には作業場所も十分あり配架や整理は楽にできそうでした。けれども書庫には冷暖房設備は無く、保存環境としては苦しい点も。



移転時に2つの学校跡地施設の書庫と団体貸出図書室を本館に統合したことから、蔵書数約78万冊のうち本館13万6千冊、書庫15万6千冊、団体用書庫7万8千冊(平成23年度末現在)となつています。

貸出の2割ほどは予約本ということで、書庫の古い本の利用も多くなつていくそうです。エレベーターがあるとはいえ、来館者からの出納依頼に、その都度職員が鍵を持って長い廊下を取りに走るの、なかなか大変だろうと思われました。南京錠は、子どもが入りこむのを防ぐためということでした。

旧館よりは収容冊数が増えたけれども、すでに書架の9割近くが埋まっているように見受けられました。書庫が満杯になるのは時間の問題。除籍を行わなくてはならないのは、他の図書

館と同じ状況です。「廃棄保存会議」を経ての除籍は毎月実施。多摩市内での最後の1冊は残すようにしているけれども類書の多い実用書は除籍になることもあるそうです。



書庫内に廃棄保存会議用書架があり、都立図書館や多摩地域の図書館の所蔵状況をチェックした提案用紙が本に挟み込まれて準備されていきました。協力貸出の可・不可の区分や所蔵状況確認が丹念に行われ、残すべき本を残そうとする取組みが行われている様子がう

かがわれました。今後の課題は廃棄や保存に関する規定を改定していくことだそうです。



お忙しい中、丁寧に御案内くださった井上さんに感謝します。

(事務局 吉田)



### 陸前高田市立図書館 郷土資料救済支援活動 に参加しました



岩手県陸前高田市立図書館は東日本大震災の津波により全壊、流出。職員は全員死亡または行方不明になりました。その後、貴重書庫内にかろうじて残っていた「吉田家文書」等の文書は救出されましたが、郷土資料は全て流出したと思われるしていました。

しかし、12月に現地を訪れた多摩デポの会員3人が、自衛隊によって集められ

動車図書館車庫に積まれていた推定2万冊の児童書や小説類の山の中に郷土資料を発見。また、閉架書庫資料が山の下の方にあるとの証言も市民から得られたため、関係各方面と連絡をとり、急遽救済活動が実施されることになったものです。



救済活動の第一期は、陸前高田市教育委員会の要請を受けた岩手県立図書館が実施。日本図書館協会東日本大震災対策委員会と岩手5大学の「きずなプロジェクト」が協力しました。期間は3月17日～3月19日

の3日間。多摩デポは日本図書館協会の図書館支援隊「Help-Toshokan」活動の一環として5人が参加し、資料の状態を調査、保全の必要がある資料の選別を行いました。

延べ48人により選別された郷土資料は5百冊近くのにぼり、近隣施設に一時保管されました。震災から1年を経た資料は山の内側部分が砂・泥にまみれて湿り、微も生じてブロック化、作業は全身に防塵対策を施した姿で行われました。



救出後の資料はリスト作成をするともに、第二期

活動として、岩手県立図書館に国立国会図書館や日本図書館協会資料保存委員・東日本大震災対策委員会が協力し、状態に応じた蔵書復元、修復等の方策を検討することになっています。

なお、この第一期事業への多摩デポの参加については、陸前高田市の建物撤去日程の関係もあつて急遽計画が決まったため、予め会員の皆さんに広くお知らせしたり、ボランティア参加を呼び掛けたりする時間的余裕がありませんでした。事後になりましたが、この場で報告させていただきます。



## 【作業手順】

自動車図書館車庫に山積みになった図書を一度外に運び、郷土資料など保全が必要な資料を選別。選んだ資料は、表紙などの汚れを落としてリストを作成後、箱詰め。不要資料は車庫に戻す。

## 【作業日誌】

3月17日(土)

昼過ぎから雨が降り出したが、作業は順調に進行。岩手県立図書館5人、きずなプロジェクト6人、多摩デポ4人の15人で作業し、積まれた山の半分弱を点検移動し終えた。仕分けした結果、複本等を除いて修復候補となった資料は約130冊(図書、小冊子、写真、行政資料等)。非売品の希少な資料が何冊もあった。手書きでリストを作成。本の

状態は、外側は乾いていて今後きちんと処置すれば修復可能と思われた。

しかし掘り崩して中へ進むにつれ、湿った状態になり、黒いカビが小口や表紙に生え、山の内側は砂まみれで、表紙にも砂・土の塊がこびりつくようになった。資料状態としても作業内容としても困難が増した。タイベックスの作業着や防塵マスク二重の手袋、不織布キヤップ、防塵メガネを用意して事前に対策を講じており、注意しながら作業を行った。

3月18日(日)

2日目は18人で作業。天候に恵まれ、車庫の本を外へ運び出して選別することができたので、スペース的にはゆとりがあり、車庫内の本の9割ほどの選別を終えることができた。本の状態は中ほどが最も悪かった

(壁際の方がやや乾いていたのは、壁が呼吸していたのかもしれない)。悪い状態の泥・砂まみれの本の選別は、砂場の砂から本を掘り出すような作業だった。



拾い出した郷土資料は、表紙はぼろぼろで背もはがれ小口にカビも生えていたが、内側の頁は白いままで乾かせば修復や複製作成が可能と思われるものがほとんどだった。ただし物理的に痛めつけられたもの、積む時に乱雑に積まれたものの修復は困難な状態。BM車庫本のほかに2階に取り残されていた郷土資料も点

検を行い、複本などを除き約120冊を選別。本を積み降ろし運んだり積み上げなどの作業で、作業時間も昨日より長かったため、終了時にはさすがに皆疲れた表情だった。

昼休みには、仮設の子ども図書館の「ちいさいおうち」を訪問した。隣に市の仮設図書館のプレハブが出来あがっており、電気工事業者が来ていたので中をのぞくことができた。書架は3×6m分くらいの部分に設置。BM書庫と思われる程度のスペース。建物の横に寄贈されたBMやまびこ号が駐車していた。

3月19日(月)

やり残した1割の選別と、選別済み資料の複本除去のための泥落としと再選別、リスト化などを行った。晴天であったが、風が強く、

### 最新情報

まわりに遮るものが何もなく、風が直撃を受けての作業だった。BM車庫の全ての点検を午前中に終え、1階の床の本も見て回り、残されていた本はひととおりチェックできたと思われる。午前中には陸前高田市教育委員会職員も状況を見にみえた。午後は選別した本の砂を払い、リスト化を続けていたが、強風に砂は飛び、油断すれば紙も飛ぶ状況のため、2時に終了。

### 第二期 救済支援活動

決定!!

第二期活動が、6月3日から5日に実施されることに決まりました。作業内容は、応急処置(乾燥・殺菌・ドライクリーニング)と第二次トリージング(ドライクリーニング後の

修復や複写等、処置内容ごとの仕分け)です。

岩手県立博物館が作業場所を提供。日本図書館協会資料保存委員会が技術指導、国立国会図書館も協力、HeIp-Toshokan 修理ボランティアが作業の主力となる体制で行われます。

多摩デポからも、若干名が参加予定。作業を行いつつ、第一期の結果を見守り、第三期以降の支援の方向を探ります。

今回は、2月の第13回多摩デポ講座でお話いただいた内容を、実地で学び直すよい機会になると思われまます。将来、共同保存図書館が実現したら、多摩地域の各図書館の大事な資料をお預かりする多摩デポ。そのような観点からも、少数での参加ですが、万一の時の備えに、しっかり学び、経験して来たいと思っております。

### ★会の現勢

2012年4月1日

現在

### ●会員

(個人会員100名)  
(団体会員3団体)

### ●賛助会員

(個人42名)  
(団体2団体)

会の活動はみなさまの会費・ご寄付で支えられています。新年度の振込用紙を同封しました。

よろしくお願ひします。

### ●年会費

正会員(個人・団体) 五千元

賛助会員一口 二千元  
(個人一口団体五口以上)